

講評 (敬称略)

●最優秀賞 「雪の正月」 矢野 直孝

有名観光地の定番ポイントを意外性で超越。望遠レンズの圧縮効果による迫力、水平垂直の取れた絶妙なフレームインフレーム構図、東京では珍しい雪の日の3要素が合わさりインパクトある作品に仕立て上げました。プリント技術も高く初見から高評価でした。

●優秀賞 「浮上」 青柳 征三

何気ないシーンですが、想像力を掻き立てるタイトル、強烈なビジュアルインパクトで見るものを圧倒。好奇心を煽られ、まじまじと作品を凝視してしまいます。フォーカスポイントのズレやピントの甘さがなければ最上位選出もあったかもしれません。

●朝日新聞社賞 「初日の出を浴びて」 高橋 範人

マスクをしながらの記念撮影はコロナ禍に置かれた現代を物語っています。帽子着用、完全防寒で目元しか見えませんが、当人らの表情は明るく良い思い出の一枚となるのでしょう。別の2人組や青空、富士山、川岸まで写し込んだ背景描写も文句ありません。

●全日本写真連盟賞 「フェイス」 橋本 満子

昨今人気の水面のゆらめき。一見それらしく写る被写体ですが、自己満足から抜け出せない作品が多いのも事実。そんな中で作者の作品は誰かが何かを訴えているような表情に見え、額に入れると有名画家の自画像に見えてしまう表現の可能性を感じました。

●東京都本部長賞 「陽ざしの中へ」 塩谷 一郎

輝度差を生かした街角スナップ。日陰から日向へと踏み出した瞬間を狙って激写しています。標識に描かれた児童二人と街を歩く二人を対比したことで印象的な作品になりました。狙ったのか偶然か、女性の手に光が差したのも効果的に作用しています。

●フォトアサヒ賞 「青空のもと梯子乗り」 岡本 洋三

気持ち良い作品ですね。青空、白い雲、新緑の色味もそうですが、高さを感じさせる画面構成が見事に決まり、見る側の心地良さにつながっているのでしょう。演技者のポーズも決まり、浮遊感があるのも好印象です。

●富士フィルム賞 「ん？」 小林 優太

かわいらしいポーズですね。何かに気付いたのか、視線の方向から誰かが話しかけたのか、タイトル通りの表情がたまりません。大きなお風呂で浮き輪をつけプカプカ浮かぶのもこの年齢の時だけ。フィルムに残したくなる作者の気持ち、よくわかります。

作品中の赤ちゃんが使用している首掛け式の浮輪については事故が報告されており、消費者庁が、使用する際は取り扱い説明書をよく読んで正しく使い、使用中は子どもから目を離さないといった注意を呼びかけています。本作品は保護者が安全に十分配慮して撮影しています。